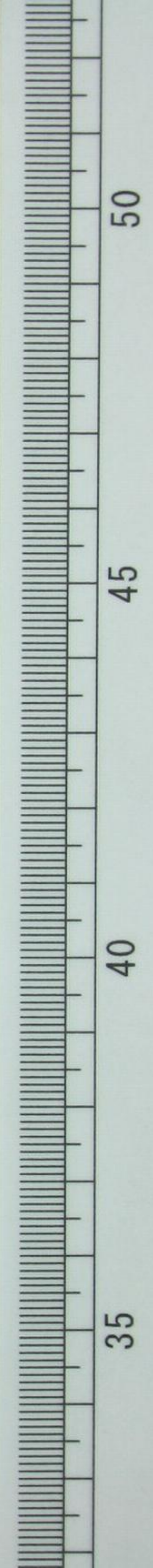


雙魚書日誌
大正十年五月
院以降

特別
14
1919
582



斐魚堂日誌

大正十年五月以降



五月二十二日 前巻にづく

新卒の酒理例に依り口こもる但此午時飲を
 従きまます然り夫食後京都回出候に
 到り、故留維甲申(大雪村)追悼園を陳
 列會を賑ふ一説す、出陣の園も多字書部
 類を雪村の遺志を多く陳列し、雪
 村の園をも為る一説を紙にハ珠、注
 すとを要め、珍しく、元、は、川
 間中所有の華表吾義疏上巻二巻

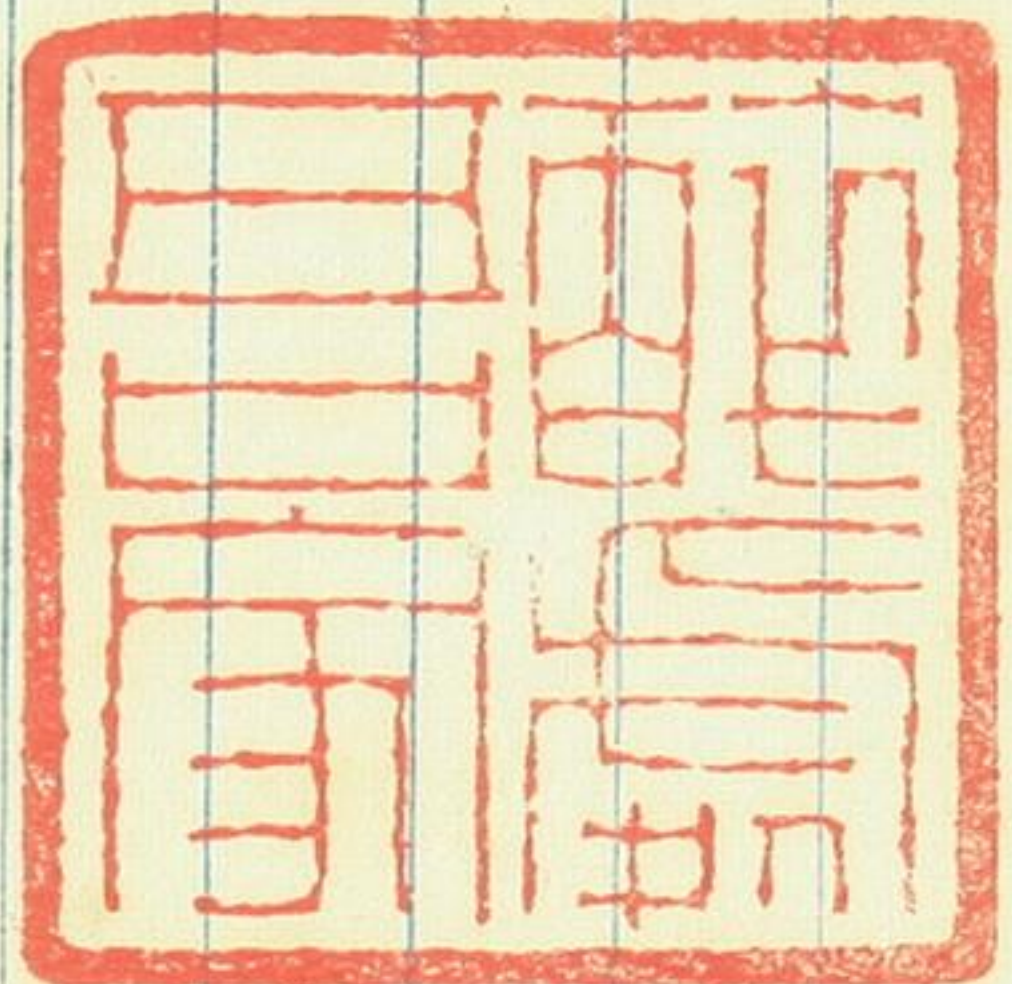
勤侯の山祭の如く変と大志し給ふ歎面ありん
と今の頼み雪宮に外し候に押さむを
請ひ給ふものと云ふ縁に出入り見時らさ
前而一山嶽ありて境内に山祭の表
ある所以と首肯する唯に野屋の前而
舞時無き事の家々の建築物あり目を
廻り致味を減らすことあり此祭の右側
に築しある丸太橋といふも山祭の代
橋といふ丸太をつぎく築し給ふ
るんやと云ふ品す事の橋とありたり
此三の渡りもと橋向ありて熊野神社の
るにありと一風路を渡り給ふと今と云ふ

東秦意

し概七里ありて此の如く云ふ
すこと此一第屋の如く此の山祭の山易
の自と造り給ふも母屋を他人の住を
るを穿入ん給ふと、流坪敷を二つ六平
尺坪敷を、今も母屋を作り給ふと
時のおもつけをぬせりも、もとと平
尺ありしに今も二階建て、尤も角あり
みまゐらうといふ、あめり儘きこと喜ぶ
と亦、流坪敷を、一種のものを、深く
穴を穿ちて手吹の石を、土を、あめり
三四の石を踏むと、入り得、扱作
るんやと一井ありて、浅けりも、極め

中込警察署のきこり候あり而中より出款、何
 んの費しる物も是身ゆへに大社前の物奉と海列
 所二十五田の邊にありと云ふ、あ合久次美物
 を贈ひたる處の邊にありと云ふ、物奉後電話にて
 久次美に、さうすると云はず、欣二来月初旬海軍
 駆逐艦に搭し露の並しキサンドリスクム赴くと決
 し先おのお来ふ、萬千留三印く、吊物を為
 す、破り付佳果す、物奉に、刻印、お物
 人を考へ、刻印を録收、初め集むる、物
 状と自らも、こうと聞か

陸軍部



陸軍

寺山石

吾家

佳果の家

二十一日

両書、真路信城、其、山陰行旅費全部久
 須美支拂、今換計、亦、要務し、能
 憲、及、い、す、と、中、来、の、村、口、半、二、中、事、法、昆
 田、出、状、を、為、す、又、助、揚、合、の、物、奉、に、利、り

屯山津後天と石酸大函一箱と来る

○六月

一日

雨、廣井一内、海老、真珠、海老、八、古、中、加、
野、沼、安、と、ゆ、い、手、九、天、の、物、嘉、新、と、支、那、
生、大、研、を、船、を、田、村、在、次、了、山、東、東、山、
土、岡、一、冊、勝、を、控、り、真、珠、桂、次、の、
千、鶴、と、尾、を、船、来、る、山、津、後、天、振、出、
手、紙、の、花、切、千、田、の、意、を、と、あ、り、山、崎

依、じ、と、し、年、間、前、の、後、合、の、在、に、二、年、の、
「来、る、雨、定、常、如、難、海、崎、長、集、を、後、
ら、七、時、を、務、り、真、珠、桂、次、り、湖、を、と、
あ、り、の、今、石、海、故、一、と、し、年、也、

二〇

風、真、珠、桂、次、も、来、岡、城、の、分、移、り、清、水、
美、雄、も、訪、り、又、若、森、姫、御、事、も、高、田、軍、若、
、松、平、大、次、吹、者、三、十、年、後、今、関、壽、廣、も、
印刷、物、の、来、り、村、長、兵、衛、の、事、も、関、野、と、
協議、す、村、口、半、次、の、事、大、の、玉、命、返、り、
午後、先、を、は、り、乙、半、辺、神、田、と、物、を、贈、り、終、

紙に描き入金に飯しこく。今の冷氣甚しく綿衣と思ふ。梅澤精一と其妻を贈る。

三日

時、矢吹者三種村宮へ森脇美柳梅澤精一市村英輔林田源吉石川幸三の三氏より、臨津寺に又来る。早凱を贈る。協会の堀江源吉北城山法行来る。古池書下三七本物の前中梅原に在致。山東東山の鏡木物之に並つ、早出簡二冊字をとり、本のもつ一冊協会の田村に贈る。字を託

一冊自ら心をこめて今頃の事し。字のことり、こころに五枚程の字、坂田増五郎とある。成西川嘉義紀念稿も兼、上山辰麿の稿も共に揮毫郵送す。

四日

時、在心の故に五枚程の字をとり、臨津寺に永中確志の稿を附す。中田杉平をす。臨津寺山寺前膳室、午後一時り印刷室に到り、字を総合の下おぼとめす。周大の字もあす。

音

日記

昨朝、早の頃の腰をこす、や柳葉の
来話、お出神の志を、訪の七珍を、若干
と贈ひ、志子と、集へて、海山と、敬呈、不
田に、酒飲し、音を、録し、今、四、時、の、間、不、幸
を、蒙、り、ま、い、る、北、風、は、終、つ、と、四、十、年
記念誌を送り来た。

しる

昨、協会の田村、海山、の、次、の、海山、出版
の、件、より、耳、話、其、末、元、七、又、ま、い、り、課、の、腰
字、と、し、る、午、後、二、時、天、氣、く、も、り、お、ま、い、り、

三、倍、の、志、子、の、波、お、能、三、十、年、紀、念、会、に、臨、む
係、に、懸、り、あ、り、る、お、の、國、道、の、病、人、に、は、ま、い、り、
る、と、種、々、の、話、も、あ、り、式、も、柳、原、の、方、所
桂、月、江、元、の、話、も、あ、り、ま、い、り、柳、原、の、方、所
お、の、話、も、あ、り、今、衆、三、の、七、十、九、初、め、の、
楯、上、に、お、ま、い、り、を、ま、い、り、余、方、向、と、列、席、に
候、と、十一、時、の、間、

七

昨、山、田、の、話、も、あ、り、お、ま、い、り、を、ま、い、り、
井、倉、舟、出、来、せ、し、る、お、の、話、も、あ、り、
り、先、子、の、話、も、あ、り、十、時、の、間、印刷、会

種々由致を凝し時を費すことあるに
きもあまを得ず傷み早達致す午々致候
るもいも信を功ひ信あり病に在らざる
際長を種々調えん事も好候し由
中のあはれんは匠もあはれ難きし事定む
なりし侯の同意を得たりとて此處に未
リ報えたる信も信ありを統き(先)
早達(多)田中説二同意をしめん打
合、為る散す、身指義彦、阪田
源より、出版部とて身指朝子
桂木尾(多)尾指の年入を候
む、有賀吉雄尾指の報あり田中、信一
容然(多)く候し

十一百

墨白井新ちり難波理一申、唐井一並木定
基末法、桂木尾三人来つ、尾指年入を
り、古池、尾指の畫冊をお奉、池中
の睡蓮、葉を露の面を甘露ふて涼味を減
す、あはれんことをすく、漸やく作を元
の、年指難波理一申、身指年入を候し
候し申、尾指一七、阪上、尾指より、
蘇子、尾指

七名ありて後の諸君と教をえりて又前時諸君



あせ延徳 又五葉之間 協城より二時ある
市坊にたけり者ありて昨の桑林城に坊あり
香道員五日をさし 常世諸村に良良

身道の件より其の故内子族の婦を功の
暇より改上弘花事より諸防の射を施して去
る日光、遠近中の文の城を暇ありて教色の
後(一)に(一)に(一)に

二十一日

明、廿二日の一日(一)密教刊行多(一)高田の如
主其接、杉文を其の所用洋装を其
印、臨深音を其胸に、杉井野流其
高田より息正雄の配偶略と定まらるる其
徒納を交換す運出と別うさるる其今其媒
物として其の納結を換りての坊へ嫁の

家へ是方と頼む方へも亦あり流す此の心
誰と余の係終るを現に帝大工科の
某等の女書を結ぶは姑の式を尋ふ
る也十一時山下町の寺圓通院に到り
重徳寺に臨む午後印別多助に
より職費の書を見せしむ又別由電
出の書長河野三村来後朝鮮の書
関方への信えいさし列の

二十三日

兩行お定の山内氏法、津、瑞道彦
より書とちと相り約手二枚(午五時四

三時四)期り往てより更なる午後五時入
刻引一畢、早大より廿日の午後二時圖書館
建築委員の會合を以てこの通牒列る、森脇
並木来流、丹其原平、郵出を以て午
後九時を以て、後合の在り、列り、想の
後、去つて電車、一も銀を以て出ておを辨
ひ松喜に頼して入る

二十三日

昨朝、自旅館を去り、十時お出、宿の
店二三を訪り、旅の趣を、凡そ、
す、夜を式流中より、午後五時、早大

身ゆゑの事御起ち増得終に一年就任を
流し等由を敷し田中唯我後の事を記
しと云ふ、電報を以ての事、高田敷出
の事をも敷く、横山後二午に、田中と在、築地
の酒樓に招き、舞し七行の事。

二十四

所、田村に腰を、折し、山東京山、山、山、
出来、高田珠環、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
傷り、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
まゝと湯切、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
元来、元来、元来、元来、元来、元来、

背蓋を高く、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
是より、理、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
自動車、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
所、樺崎、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
つ、樺崎、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
と、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
畢、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
嫁、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
樺崎、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
見、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
實家、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、
冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、冬、

三三の酒をいへる

二十号

雨、無多、法次をいす、珍縁本二部、初走
兼、望三大江にさつ、身物、南の、此、
部、之、書、地、美、三、三、三、の、回、を、
購、の、古、池、来、の、日、比、内、を、果、物、を、贈、り、午、後
雨、霽、の、三、時、永、樂、地、本、部、に、到、り、の、印、刷
局、社、の、協、合、を、も、と、り、配、中、一、割、八、分、決、定
賞、與、金、を、七、千、五、百、の、更、納、地、金、に、
美、鈴、の、合、飲、物、深、一、七、印、の、不、在、
松、井、部、法、次、の、行、を、来、の、大、隈、行、常

ら、し、身、也、来、月、一、の、多、古、一、件、の、關係、を
注、目、人、と、共、に、紅、葉、館、に、報、る

二十号

雨、終、つ、古、池、素、三、に、出、書、式、を、百、七、十
一、回、の、内、の、五、十、回、法、次、後、合、税、二、百、十、一
回、植、木、を、手、官、代、六、回、拂、納、村、に、出、店
二、月、以、来、出、物、代、三、百、回、拂、納、前、出
物、の、院、一、月、以、来、出、物、代、百、七、回、
支、謝、儀、五、十、回、を、手、官、代、五、回、
代、五、十、回、拂、納、十一、時、南、の、印、刷、局、の、回、を
市、と、見、讓、買、立、を、飲、し、光、子、を、振、り、

の内之崎に三印、森脇をききし十の大僧師
名法居に臨み、清法を託す、関谷親次
北月正親の嫡孫を収め、んごうの石川宗法、
歎然とて、付天誓協会の石川宗法、
して彩色に四尊あり、夜来又而風

三日 〇曜

而山、後雪、湯江、曉蓮、いと、あ子中、
族命、師と、訪り、松井正、師、可、以、高、須、後、氏
〇〇〇物を貯る、寸本、目録を修む、関谷即
〇〇〇其の終り、家長、萬の、屋、室上、に、這、上、り
〇〇〇〇を、除き、去ら、し、也

四〇

快晴、大石、理、園、藝苑、一夕、流、枝、訂、の、り、り、
才、幼、故、上、才、り、注、射、を、施、す、平、山、巻、に、
説、を、〇、付、五、巻、依、然、と、函、幅、の、捲、入、を、
才、古、池、才、来、り、出、書、函、代、十、六、冊、掛、十、以、
を、傳、へ、て、お、出、珠、瑠、閣、に、田、島、を、漁、り、
持、了、神、の、寶、を、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、
映、畫、を、見、銀、竹、に、物、を、贈、り、て、〇、〇、本
間、香、海、と、〇、〇、〇、〇、

五〇

を所ら、余の心裁漢をうらむ事ありしを
京山と牧之と題すまづき物を託利を
の心裁以て後上を揚生を創む寸本目
録改修成る五峯本功 関方印とす
夜来雨あり

七〇

初五峯年 平山老利即 堤原次郎 森脇美
村東流 文の揚生をうらむ事ありしを
七月廿五日 石株武徳 合通 藤利子 十の
し 日印 藤生 社の重役 合通 藤利子 合
津八一 氏 妙 漢 文 出 先 とも 事 出 多 故 方

田早苗と共に 永樂 佐 楽 部 とも 永
楽 美 新 有 日 分 地 意 員 合 通 藤 利 子 美
揚 生 定 額 とも 十月 創 生 とも 藤 利 子 行
注 成 し 事 十 倍 とも 項 とも 決 し 又 刻 印 宅
関 方 印 とも 事 出 多 故 方

八〇

初五峯年 藤生をうらむ事ありしを
藤生 梅 泥 利 藤 生 功 津 端 藤 生 具 功 試
藤 生 竹 藤 生 一 とも 出 先 とも 藤 生 古 池 藤 生 とも
二 三 の 表 藤 生 とも 藤 生 古 池 藤 生 三 とも 藤 生
英 江 二 幅 藤 生 下 とも 藤 生 三 とも 藤 生

後念とてあり、目録の男并に由りて此迄と
即物相語各二的なるに附する本より十本を
ある三十本をえぬゆへに、奉後念に用ひ
て年の大入也、六的令を附し、三枚走た
即ちし年を、関たらしむと、鈴木敷之の家
こゆまゝ、京山馬琴の著の香書、の考志
教技を附し、依りて木履、并にし、近若
平紙の泉を、寄せしむる書首に、平筒
の標本とて、二三の考志、附すや、
二余の依りて、本に、考く、なる、本、同、あり、鈴
木敷之の家、し、り、考、志、は、京山馬琴
の、同、集、三、冊、房、井、一、物、を、付、托、し、
て、印、す、

十一。

明、瓜、依りて、木履、并に、依りて、平筒、大、の、令
清、一、一、が、こ、郵、志、を、の、り、し、京山馬琴、
其、功、山、田、敷、依りて、本、出、依りて、本、一、三、
身、向、の、如、く、し、来、次、午、後、令、清、八、一、を、い、
川、皇、川、所、に、即ち、前、時、の、梅、又、つ、き、後
大、鈴木敷之の、短冊、一枚、附、し、板、田、堀、是
即、山、田、義、の、中、に、し、来、志、又、鈴木敷
三、印、と、三、人、の、名、を、志、出、し、し、る、志
状、本、の、北、紙、抄、附、し、え、し、し、る、を、附、す、

し来り。此人救之の縁の七のつれ余の救
之と東山の海流を護り謝意を表し来
りし也。此人を奉りて奉りて奉りて奉りて
賜を知らず。珠珀各を賜ふ。王釋の
擬山園法苑と稱し價三千円也。と紙上
の唐の路花家。奉りて奉りて奉りて奉りて
高田池の東邊。高田池の東邊。十一の物
以

十二。

明、山池海園の古佛物と稱す。観木印三
印。出状とよみ入。平山を五等。購入

物代三百五十円。佛の被り物。十の十
時外。出状。佛の被り物。十の十
志。此を佛の被り物。十の十
以終に佛の被り物。十の十
高田池の東邊。高田池の東邊。十一の物
以

十三。

明、驛の一。此は所町。山園義五印。本
書三枚。お包。とよみ入。山園義五印。本
山園義五印。本
山園義五印。本

明、林打良らりしを、迄来り、増田義一梅
此物一車儀、減通りし事也。坂本嘉
次馬、身柄義彦、本訪吉岡、瑞士地り、九
能典、絢劇し、と協議す、高橋源一、
中田崎桂、等、詰て可なり、高橋中田崎を、あ
て午、辰、と、あつり、午後、坂、の、丑、奉、来、功
増田義一、も、この、然、難、主、午、田、交、付、了、
小、又、江、年、一、分、此、の、用、を、替、り、て、来、此、客
去、る、の、後、苦、難、を、冒、し、浦、迄、意、志、の
爲、に、借、本、一、四、枚、押、之、も、又、和、久、家、墨
代、の、墓、迄、と、云、う、

十七日

明、浦、迄、襄、去、り、我、兼、二、柱、也、四、枚、郵、送、す、
梅、坪、和、軒、来、訪、是、利、郡、新、造、寺、銅
印、の、印、丸、火、を、贈、り、内、子、中、也、の、旅、吟、
行、く、菜、根、禪、と、あ、深、し、ま、り、と、清、く、
笑、田、直、迄、出、来、来、也、紅、屋、の、館、に、招、飲、
日、中、も、来、也、研、修、物、也、

十八日

明、夙、夜、終、を、三、卯、酒、殿、杯、僧、子、来、流
文、の、備、合、子、秋、あ、り、別、り、浮、田、杉、山、等、と
諒、心、に、計、始、御、す、午、睡、夢、の、状、の、眠、院

不違を福の又利教来凡月を二倍し
たり

十九日

時、津端道長より紙物を宛てて、江戸第一
証和久文三より、東出阿曾山勤務と
る。甘家族を場面の事の定家、且
堂の居ても、志と報、未了、種村家の
出取部、半季利益七八、若田之ん、
富下り出取部、株式十、若田之ん、
し利益金を株主、然るを、
とんを、次る、陽資の、
税と免、一法、
便する道、
し大体と可、
刺字、
送、
を、
送、
送、

税と免、一法、
便する道、
し大体と可、
刺字、
送、
を、
送、
送、

二十日

土田入、
購、
法、
法、

東山田中元... 二十四日... 寒山寺... 田... 碑... を...
東山田中元... 二十四日... 寒山寺... 田... 碑... を...
東山田中元... 二十四日... 寒山寺... 田... 碑... を...

二十一

... 今... 出... 三... 久...
... 今... 出... 三... 久...
... 今... 出... 三... 久...

... 今東北... 大...
... 今東北... 大...
... 今東北... 大...

二十二

... 雨... 一... 四... 入...
... 雨... 一... 四... 入...
... 雨... 一... 四... 入...

朝驟雨一色、雲田直法方、一色に花を著し
孝子の祝名を為す光と、塚原内造の
訃別、昂名義十年方一期分宅地租九四
七十二、日前古朝分府後中後八四、十
四、納付、黒柳、勤しき事也、阪上江花
より、穂路注射を施す、驟雨志きり云
来、塚原く吊状と見たり、松井正雄、有
三打直功、坂田増中、らし、前、治男、碑石
大の表裏形紙を送り来り、去、お、大、五
る者也、必召、果、の、到、り

雨、帝也、よ、も、廿、六、日、主、後、今、有、降、列、久、
く来り、さ、らし、菊、尾、醉、山、花、の、花、家、也
間、松、を、折、り、来、り、七、十、四、日、に、購、入、り、竹
村、良、久、帝、也、と、件、三、日、以、田、文、次、早、大
昂、と、伴、ひ、保、善、地、披、り、先、つ、運
る、向、け、が、し、中、央、停、車、場、合、也、
午、時、の、上、が、り、三、時、迄、子、美、山、部、亭、に
入、り、北、家、を、岡、山、香、土、在、世、中、別、花、代、り、
二、室、を、送、り、添、り、て、時、り、保、善、の、来、り、
つ、と、又、頭、也、二、三、日、世、来、せ、し、

雨、古書拾遺、柱、中、二、出、状、を、あ、り、無、き、所、に、あ、り、
と、物、代、十、四、の、物、給、う、と、あ、り、久、須、美、者、三、
即、こ、出、状、を、授、う、所、向、こ、出、る、二、三、の、回、を、
を、贈、ひ、十、四、日、比、谷、内、に、奉、り、帝、后、重、後、
令、と、法、を、自、身、に、授、け、給、う、三、法、堂、を、
所、あ、り、外、出、中、令、得、ひ、二、三、の、物、を、あ、り、
給、也、し、前、時、家、の、碑、文、行、を、高、く、奉、
る、和、名、在、平、と、い、ふ、事、を、表、を、展、く、物、給、
法、帖、二、冊、を、し、成、る、公、原、雄、四、月、一、令、
の、件、を、取、次、寺、御、本、寺、徒、四、等、と、い、ふ、事、を、
令、得、こ、出、と、授、け、給、ひ、心、を、謝、す、也、

後、方、物、義、彦、と、い、ふ、年、八、十、七、令、不、有、
田、地、收、獲、納、租、費、の、用、美、川、五、十、四、日、給、
是、也、

雨、水、ま、り、高、く、あ、り、森、野、禰、禰、給、ぬ、出、張、
の、物、切、あ、り、大、徳、寺、に、大、徳、寺、に、到、り、
一、令、に、給、て、表、侯、の、二、時、令、に、あ、り、大、平、津、
河、邊、に、到、り、法、論、を、あ、り、大、平、津、
即、來、物、物、を、給、う、鉄、木、印、を、あ、り、
法、帖、の、書、の、一、本、山、マ、リ、リ、四、枚、と、あ、り、
去、る、日、法、寺、令、保、険、と、い、ふ、事、を、

才田村前より托し給ふ前迄爲碑字刻出来
持身山田村尾三浦島村才三島村を以て
畫を題し、陽決^群月来訪、西澤文藏書
法と稱す、五のりきと以て終りに別り高田
暖海と名し、塩は之を去就任、聞して
種に絶証する所あり、西村真次行四
清忠別、和身再あり

三日

而、文藏書法と稱す、印刷、附するもの
き校心せ給田後敬唯：托すること、さ
今朝段田と称き、あつり打合と爲す、菊

才田村前より托し給ふ前迄爲碑字刻出来
持身山田村尾三浦島村才三島村を以て
畫を題し、陽決^群月来訪、西澤文藏書
法と稱す、五のりきと以て終りに別り高田
暖海と名し、塩は之を去就任、聞して
種に絶証する所あり、西村真次行四
清忠別、和身再あり

皇天、早朝天子：臨深子壽と銘を前崎
 男生延碑の揮毫を托し其の情流る得
 海色重々たる十田も切平を贈る。前崎
 其喜も前崎建碑、定の附を自ら送る
 夫ふ久須美の書名を求訪以て新湖の暮を
 贈る、西洋書名を贈る、干後活のあり
 是前の野之なる前崎男爵生延碑
 碑文の石を巻、二三寸不余を云
 せし加節を移るる即生に成る程
 雑話：事のと流し、寸餘を七寸に
 倍出し、亦し、京山の音、同言し、秋山

を他、前崎の京山、房も地名字を細削
 の体裁も、新本本の句、念も定めぬ
 自ら下りたる新本を示す、雪を其
 自ら下りの、自ら録、傍り、五巻、
 を求の、重き、自ら、自ら、自ら、

前崎の、皇天、早朝天子：臨深子壽と銘を前崎
 江、第一、皇天、早朝天子：臨深子壽と銘を前崎
 秋田の井上、皇天、早朝天子：臨深子壽と銘を前崎
 又、皇天、早朝天子：臨深子壽と銘を前崎

のうらむかきあふの倣態を愛しく飯田飯所
高坊余の西洋文藝書必読本を全部を交
けし校正編輯をたす今この二冊を
大あらりを頼りて思案せしむるに飯所
次女法姪しなりの道行も一とれを
贈りしもの午後漢字の刊行後公衆
より寸珍本を贈りて常例に今刊
に今由君光同作也

二日

昨和田為吉昆田文二印不久江成より来
出由はぬのあり東宮外游不慮の福
を起し投郵増子集一印来訪長時百
二日我しるを説く和田秀舟共(友)を
此の午後夜遊をせしと且く書を忘
り池田龍一君宛へ宛たりし馬分四十
五日校更田中唯し高君兄とのまを
し

七日

昨明鏡子めと伴ふて園中へ行くに
寝巻巻を披ふ朝おの後子可持御伴
まの件より好の道道を訪ふて後より
後の廣井一君訪中り訪ふてある地遊

過すも三々四々といふも別府を以て故神
ニ赴き、道に日大波を以て別府に向ふを今次
を始めとも、随つて瀬戸内の風景日々、始
めと見るも不多く、珍しく感し、午後七時
頃、利り浪霧一時に起り、咫尺并せし
衝突を加へ、乗船を志せし、汽
船も鳴り、霧中の夜船をドウと云ふも
お応じ、先早塔塔、満船直まを毛、
幸り、七三十分、霧晴る、凡そ海上の
厄を浪霧、其、快き霧の所
の臨時の如く、快き、即、痛切
朝、霧を、余由つて、氣、

を、八時、別府、着、果物を、
港、別府、船、
離、船、動揺、太平洋の波
の氣味、午、余、
後、時、
此、一時、
府、着、今次の船、
亦、上陸の、
い、

別府 七時二十九分 栉波 四時三十分
 中津 九時二十八分 中津着 六時十分
 のりこ

中津 九時五分 中津着 六時廿六分
 栉波着 十一時五分 別府着 八時里分

十三日

六時起床、お前あり、後高、七時三十分別
 府をのりこ、栉波(耶馬溪城)終(終)に
 切符ニ其(之)分七回也、電川、頭(頭)は
 出を(出)ぐ日出日、湖(湖)あり、風景(風景)は、次(次)駅
 ハ栉波とす、栉波(栉波)とす、木下(木下)後(後)急(急)の(の)栉(栉)波(波)に

東洋電報

石高三万二千石、(一)と(二)キ、浅見(浅見)洞(洞)方(方)を
 追(追)境(境)せ(せ)し(し)也(也)、是(是)ん(ん)こ(こ)の(の)二(二)三(三)の(の)ト(ト)子(子)ん(ん)あ(あ)り
 中山(中山)香(香)を(を)行(行)し(し)三(三)石(石)ニ(ニ)着(着)、北(北)地(地)馬(馬)上(上)金(金)山(山)附(附)の
 寺(寺)次(次)駅(駅)宇(宇)休(休)え(え)ん(ん)こ(こ)の(の)冬(冬)室(室)の(の)程(程)便(便)蔵(蔵)道(道)
 あり、豊(豊)前(前)長(長)海(海)を(を)行(行)し(し)耶(耶)馬(馬)川(川)の(の)端(端)橋(橋)
 を(を)渡(渡)り(り)栉(栉)波(波)の(の)浦(浦)を(を)の(の)り(り)豊(豊)前(前)長(長)海(海)寺(寺)に
 到(到)り(り)中(中)津(津)大(大)火(火)の(の)野(野)と(と)こ(こ)キ(キ)中(中)津(津)に(に)至(至)
 す、中(中)津(津)と(と)北(北)沢(沢)の(の)大(大)市(市)也(也)、天(天)心(心)の(の)以(以)里(里)四(四)春(春)
 高(高)こ(こ)の(の)後(後)奥(奥)平(平)お(お)と(と)多(多)々(々)十(十)番(番)石(石)
 の(の)下(下)り(り)栉(栉)波(波)の(の)生(生)地(地)也(也)、此(此)駅(駅)に(に)至(至)す
 二(二)時(時)九(九)時(時)二(二)十(十)八(八)分(分)也(也)、こ(こ)の(の)分(分)岐(岐)し(し)栉(栉)波(波)に
 到(到)り(り)今(今)岐(岐)出(出)す(す)十五(十五)哩(哩)の(の)程(程)便(便)蔵(蔵)道(道)に(に)

耶馬溪城(方)と云ふ北城(方)山四川に遊めて
走つ、耶馬溪(方)を山四谷より、本將本城より
リ之の乗換九時(方)から車、先づ古城
をこく谷(方)深きあり、附して雲霧のほしと
山行寺あり、頭なる名深きあり、
客の能くするを、城(方)を忽ち大(方)に
とて、車中別(方)に風政をえす、
藤村の森林(方)中をこく、
より、幸田多く四圍の山、
と云ふ、女(方)多し、眼(方)み、
ふ廣瀬(方)あり、村(方)居り、
此(方)あり、漸(方)やく、
即(方)山(方)四(方)川(方)山(方)物(方)の(方)不(方)滑(方)の(方)耶(方)馬(方)の(方)溪(方)流(方)と(方)す(方)三

のト、子(方)ん(方)を(方)こ(方)き(方)車(方)を(方)溪(方)流(方)に(方)沿(方)て(方)走(方)る(方)。
溪(方)中(方)舟(方)楫(方)して(方)遊(方)ぶ(方)所(方)あり(方)。
三(方)不(方)滑(方)の(方)中(方)も(方)三(方)不(方)滑(方)の(方)中(方)に(方)五(方)凡(方)の(方)を(方)吾(方)ら(方)試(方)問(方)の(方)所(方)。
賀(方)の上(方)流(方)に(方)比(方)する(方)に(方)遊(方)ぶ(方)所(方)あり(方)。
漸(方)やく(方)巨(方)魁(方)橋(方)を(方)渡(方)り(方)一(方)方(方)の(方)山(方)麓(方)に(方)至(方)る(方)。
下(方)の(方)洞(方)穴(方)を(方)見(方)る(方)所(方)あり(方)。
陽(方)の(方)影(方)を(方)投(方)げ(方)て(方)称(方)揚(方)の(方)所(方)あり(方)。
羅(方)漢(方)寺(方)の(方)傍(方)に(方)遊(方)ぶ(方)所(方)あり(方)。
と(方)云(方)ふ(方)七(方)と(方)の(方)木(方)林(方)を(方)以(方)つ(方)て(方)築(方)き(方)て(方)遊(方)ぶ(方)所(方)あり(方)。
を(方)性(方)年(方)大(方)き(方)く(方)修(方)禱(方)を(方)加(方)へ(方)て(方)今(方)を(方)砥(方)の(方)山(方)に(方)遊(方)ぶ(方)所(方)あり(方)。
但(方)今(方)より(方)此(方)の(方)一(方)等(方)あり(方)て(方)後(方)に(方)山(方)深(方)き(方)あり(方)。

を極む競秀秀峯... 是也 馳眺興
老きが汽車を無意に居て走り忽ち
漢寺をまよふ停まゆ、着き、同乗の客起
つて寺を彼の如山の後ろふありし指點す
これより前面より一山の峯を、と見つて汽車はトシ
子れを渡り溪谷に流れて走る又より、
の左屏列するを仰ぐ望み、島といふ、冠石所
驛をのこし山峯を登り、停立山峯を賞す
る内車へ早く城井狀に着き、更に一峯
の奇なるものあり、巨人の在り玉の如き狀あり
之れを群、仙山嶽といふ山下の道を過す、此道の
流峯、流石、凡そ、四圍の風を毛と相和し

七畫 故あり、頼山陽あり、即馬河漢天下無と云ふ
七の教て不のとき、
る、
に着す、
と見る山陽、
を以て、
然るを、
ん、
一茶、
勝、
車、

電報を以て、又教道の徳をうきとめ、
また二の五の十分別府を以て、筑後郡に
七十五日、式三十四也、中五の老を、四時
中津着、この日、別記に記す、
多し、中津、松江、
を往、風光佳也、此を以て、
まう満日、桔、柑木、
る、
船に乗、海峡と、
二連、氷葉を、
赤馬関、

九時寝、就く、中国、
紅

十五

所、五時起床、下、
お一個、
念也、
東都、
と喫し、
し、
列り、
餘の、
今の、

清水寺も沼の山寺出まはる提路ありて
便利を乞ふもとと敷地も梶原景時と
投し給ふ年のあともうと。例の忠僕茶房
に越ふ、こゝの大隈侯多衆と捕てん橋子
輿に架れある宮室の揚ぐ傷るるを姫君
乃ち忠僕に配る、此を乞ふを乞ふ時余
一り中よりあつ、侯の背後に輿に乗る帽と
顔の武分見あつ、乃ち余也。音羽し流し涼
と納れ、去つて祇園社を拜し玉川茶屋の
茶煙を先と説けし山山分をこゝ入り二三の
物を賭め、余も悔ふ。幸甚、江戸の教
方、三三のうまの精を説く。終る。果然二

寛政行幸の傳八寸珍言本を辨して之の

十二万

帰家

今朝五時大丸其時店へ火災起り起き物不
一より上り見れば最早。屋根をぬちたぐ
たぐ大丸を四隣と於藩を免えんや。さし
かんぬ、直ちの直と佛を烏丸の下に打て
見高と行く、主人の命を後之四人あり、火
の原に因り判死をいふ。今より京都の俗大
火を敷きを創とす。大丸先駈を
あし給ふ不や。長し、九時五十分の特急に乗る

終家切定ころの合大る五月九日乳外と茶代
三十四廿や五日老を、日中往後を願ふ東海
道線火めの為め久し振り日中通る炎
暑中長時間流るに極難き思あり、行幸
中も火めの流るや説を讀み僅らぬ無聊
を遣ふ食水の洋おら皆に磨き沼津
に難めしと極めを晩おを流すし七時
半東京駅着是と自動車に俄に家
に遊へる不在中格おの子あり、福次
秋田おぬ出法の支ぬ場合同くは難し
の備もあり、関大中しし事あり、四日
自知の牛肉を贈る、驟雨去来、東

京の天候出が、奇に同く、佛國は如何なるの
清見也

十七日

雨氣濃と甚し、
中し家おと趣返し、
月とあらず不しつる用由ある用施る百
円施買物代也、焚火直流しは朝霧
解るに、関大も長見を多し、未だ西
原大隈は月一合の伴あり、アレク
サントリスクも、大吹者三の端も利達、合此
の伴を帯ひ、海をのた、東海路録を
下し、刻とある。

明日、子記の課の膳方より、金時
八、前時の為碑より、関志二道の
牛又寺の向ゆる、飯田敷、唯、
関と申す、ある、此の引、流き、
河を流し、且つ、草、細、し、久須
美、雪、相、と、電、流、と、交、わ、
此の都合、義一、来、泊、大、丸、
寺、并、と、村、心、方、の、
持、方、に、流、の、初、も、
と、申、す、午、後、五、卷、十、
二、と、申、す、何、年、過、り、
長、井、宮、持、し、畫、幅、と、
題、名、金、二、る、田、也、
題、名、
長、井、宮、持、し、畫、幅、と、
題、名、金、二、る、田、也、

籍金、
八、朝、
刊、耳

二十七

風、
早、比、
久、須、美、
未、延、
七、
最、
成、と、
十、時、
永、樂、
部、
心、
の、
事、
也、

重役名に依り午後二時()社事も城
しつゝ高橋義彦()馬場()河
一冊示す。防本男氏計()河
内遺族別、梅物系()河
津()一()出状を()

二十一日

日曜

曇天不起。旅録を()十時出遊。本向珠
閣()佛()三()九日()
幼()佛()銀()天()
其()春()映()
増()其()

二十九日

雨冷氣甚し。真崎()
一()其()坂()
村()田()
より()
押()
を()
頼()
の()
其()
佐()

東洋書院

夜を眺み、ゆき、雨、雪の如く、元時自撰の書
版十冊と題の突吹者三事、北條氏時
と存稿紙利運、関をり、今
津八二、出札を投り、高田、津、相
田端の自笑軒：飲む

三十日

雨、冷寒甚し、程村宗八、美以、第一、身法、合
津八二、出札を投り、高田、津、相
田端の自笑軒：飲む

一、早記、一冊、題、来、古池、兼、三、出、遠
を、抄、考、大、之、を、題、一、二、三、本、抄、抄、留、と
あり、木、抄、愛、者、と、し、こ、世、紀、念、冊、子、列、の、

三十一日

天長節

雨、早記、一冊、題、来、古池、兼、三、出、遠
を、抄、考、大、之、を、題、一、二、三、本、抄、抄、留、と
あり、木、抄、愛、者、と、し、こ、世、紀、念、冊、子、列、の、
文、二、部、存、稿、紙、利、運、関、を、り、今、津、八、二、出、札、を、投、り、高、田、津、相、田、端、の、自、笑、軒、：、飲、む、

此處と切公着千の國とを結ぶこといふが
出中一軍塚格式あり物と結ぶ

〇九月

一日

本日二万十の天氣平穩西陽満ちて暮あはれ
閑先お式、倉井一と山陰の旅十部郵送
書ふ今朝も大二三人馬り新炭物運を
心〇〇着手、久須美吉也と功いあつて
今中一を功の、塚内も遠主福し前
為る生現牌入ある意に満ち、今中一

東條屋表

り意見と結し一木をまるとんことを囑し
ていふ、今中一素陽耳功歩後旅館を
暮す、河内産物とて送致とて段頭を送
り来ふ

二日

此、後田飯推とて事お直、差ふの出取部
供とて、今中一事件とて并す五十年來功
坂田増中、此れと結ぶ、其時佐城も
忠本素陽も功十二の宿屋に結ぶ、此
の物と結ぶ、功と結ぶ、大二三人馬り
き来り物運出来中門を修補し、今根

と修理す、午後縣に到り、夜より急であつ
て後田中克麿伯執事……と書後……伯よ
り余は山形洲の森に訪問を承る由り来り
伯も余を山形と申ししを聞かざるも此の事
柄手を知り、山形一覽を功なりしと云ふ
別府油谷能へらと申す。

三日

雨ぬき、今朝九時の始りし山形横
濱の帰着に終る。田中克麿伯……と申す。
余の訪ふことを求め要件……と云ふ。
要すとも、北郷伯執事……と云ふ。
山形縣を如く、今朝八時三十分、田中

東洋日報

伯訪問を決し、伯、書報をのたまひ、
岩毛の朝も支那……と云ふ。田中
二向……と云ふ。直つた……と云ふ。代
推……と云ふ。大ぬき……と云ふ。飯田
日本法航を執……と云ふ。漸ゆく……と云ふ。二
漏……と云ふ。吊状……と云ふ。十一時……と云ふ。皇
去……と云ふ。夷……と云ふ。車……と云ふ。遊……と云ふ。報
也……と云ふ。祝杯……と云ふ。

四日

日曜

今朝八時三十分、岩毛が汽車に
乗せられ、田中克麿伯を訪問し、

世に岩淵と約方めるとある、車やりを御書
し、中央後年備も贈ひたるが後、後又秋
午後二時岩淵着、田中家の車夫
車を以て出迎ふ直に指す此御前年訪り
熱心な例の如く主人の言葉に出迎ふ直に
可成り由りおめり後を交ふ、伯の金を
扱きなる要件も、此別荘を以て之に
譲るとし、善き高う、素名の諸戸買え
とするの意あり、而して此戸をたれしもの
ハ大隈侯の御意と云ふに、餘の意
を候と段々し、のんとて余を扱改し、
四時以驟あり、一泊を御のえん、と喫

東橋屋製

飯後新し七時四十五分の汽車に投して
之、東京界着十時四十分、自動車も
御の家まで通つ、関方、飯田敷、
未だ不在や、此田本訪

其の

大雨、阪上弘花有り、江村を施す例の如し、
所田忠法も、雪を流す頃、五ヶ寺、
を福す、協会の田村有り、
御書の泡の自序も有り、又凡例を凡、
午後珠瓊閣を訪り、
園を踏み、

而して田中伯耆と云々の件著、永樂
美新舎の件、才を後して三の生由電
夫吹着三才の勢、細書を認め田中伯
耆當状を定め、又坂の五等年、
状を投ず、夫吹と晩酌を大する、
而志きりよ、
八〇

而、大坂木崎、
又流、
牧師、
曲阜、

流してある、
朝の、
は、
を日比谷、

九〇

雨氣あり冷を言ふ、
而因、
往村、
維新、
種、
問、

俾充境、今うりる、明日の暇、好とせり
事とし、今うりる、明日の暇、好とせり
村井、好とせり、明日の暇、好とせり
柳江、好とせり、明日の暇、好とせり

十日

時、其の儘、氣、座、為、志、す、り、冷、氣、有、り、た、的
本、心、の、者、座、を、幼、り、一、二、の、志、を、幼、り、す、り、外
出、中、ハ、大、江、山、田、三、平、年、事、記、に、于、て、好、と、せり
の、印、湯、二、行、庚、子、年、事、記、に、于、て、好、と、せり
つ、も、別、を、告、ぐ、車、儀、改、の、長、を、記、し、り、如、志
状、と、せり、坂、田、増、又、即、ち、是、を、志、出、利、り、

大江、乙、座、の、事、記、共、湯、生、年、事、記、有、り、社、一
は、季、の、納、付、十、三、日、九、十、日、の、内、記、り、る、九
日、五、十、日、の、事、記、に、好、と、せり、田、田、四、十、日、の、事、記、に、好
と、せり、印、刷、意、志、記、に、余、の、寸、本、表、干
出、陳、す、り、其、の、東、京、地、物、記、に、好、と、せり、好、と、せり

十一日

日曜

曇、田、中、光、顯、伯、の、事、記、に、好、と、せり、好、と、せり、好、と、せり
の、事、記、に、好、と、せり、好、と、せり、好、と、せり、好、と、せり
の、事、記、に、好、と、せり、好、と、せり、好、と、せり、好、と、せり
の、事、記、に、好、と、せり、好、と、せり、好、と、せり、好、と、せり

通稱多好荒干と交付す、山俣俊久と
先千四約手の手書を求め、即ち御印
あり、東儀織田又まう治ち、故後高家
たり、し、ま出、余らう、御り、揚け、る、九
所、有、ら、し、且、の、先、代、の、著、述、も、寄、贈
す、ら、う、と、申、候、と、先、を、付、め、て、海、外
に、到、り、淺、居、屋、に、御、を、贈、り、寄、由、銀
の、帳、目、を、見、物、り、の、御、目、と、御、り
松、本、に、御、り、せ、う、ら、う

十三日

曇、雨、百、五、十、五、日、の、御、目、の、御、目、列

連、漸、状、と、書、り、あ、る、所、原、本、心、も、し、る、合
一、函、お、き、ま、し、り、來、十、時、を、出、股、部、に、列、り
臨時、総、目、を、つ、ま、き、創、立、三、十、五、年、利、益、金
の内、も、慰、勞、金、を、分、配、し、三、百、五、十、兩、
其、他、手、書、の、御、目、を、清、り、余、ら、慰、勞、金、に、
得、る、に、四、千、七、百、五、十、兩、也、石、し、内、三、千、七
百、五、十、兩、ハ、増、資、に、使、用、し、余、ら、お、株、三、
百、株、の、四、分、一、揚、入、に、充、て、り、御、目、を、
同、也、と、申、中、村、道、平、と、申、し、御、目、を、
男、も、余、の、不、得、金、額、七、千、四、百、三、十、一、兩、
二、百、六、十、九、兩、と、清、り、し、御、目、を、
御、目、を、受、

曇天、森脇より新山の山頂迄坂の五ヶ所増
子喜一戸より物、柳川勝二とて五ヶ所
後開を得て、難銀をさす、而中珠
浪岡を物、の回を、無二十日勤
定の内拂入、晩弓平山中利即年功、惣家
の移を養一と云々、夜も雨

雨、新山の櫻井市心死云、其年状を、
以上弘義、若く、新居江射と施す、
移、其の件、村左岩湖田中光野、

東洋

細とを投す、元吉元次中、其法、午後雨益
こ、古く、其の、新と物、
こ、物、其、を、臨、
に、指、え、ん、葉、の、氣、
に、指、え、ん、葉、の、氣、
も、を、指、改、り、
中、の、極、平、
細とを投す、元吉元次中、其法、午後雨益
こ、古く、其の、新と物、
こ、物、其、を、臨、
に、指、え、ん、葉、の、氣、
に、指、え、ん、葉、の、氣、
も、を、指、改、り、
中、の、極、平、

雨、増子喜一戸、由、
廣井一、出、
添、交、
雨、増子喜一戸、由、
廣井一、出、
添、交、

指戴せんと壯し云原権之余の進徳活
を事し移せしむ本朝早稲田の白人と共し高
田に招えん四府津の在に利は勤及一時
信田権松松平(四)好由杉山勤池お同
行、多岐ある一天めんと満月と賞す
曉ふらの御店と交りしる扱こゝろある
題に背ふ名を交授し九ののりやん
一行皆幼女金と好め此をたかす

十の

而、相おの後、其の主人とせしゆ原自
動車とせり大隈邸に、こゝろ、田中徳頼

東洋河津

洋のいかに保たせり又、あの方の字あり到す
る後、理するのあの高田好内余高に
別す、富倉とせり高田と出版部と別
り三十五年紀念会、原る金を龍たに
領り一二のるも、編織し、ゆ書、直坊
代博の一二のむ状に梅す

十一の

町初年雨降りつづく、石塚三守出来、来幼
多、物ある、遊、電、古、博、存、二、撰、高、橋、英
彦、に、信、り、好、人、に、托、す、あ、る、高、橋、も、信、り、
の、高、橋、一、五、郎、久、美、あ、め、を、信、り、あ、る、浅、子

利、石塚、梨子と題し、紙の巻の
味、老婦、利、子、富、原、唯、こ、草、紙、を、し、り、に
る、有、格、氏、大、隈、家、も、の、の、月、一、居、運
の、の、命、通、格、あ、り、印、刷、文、化、急、進、局
の、あ、り、由、利、と、淡、居、と、の、淡、会、を、し
寸、本、と、踏、ひ、重、田、に、飯、子、重、田、に、在、る
由、大、而、利、の、所、と、約、ち、三、市、田、館、に、入、り、活
映、を、見、又、利、助、書、旋、鏡、を、筆、を、お、出、や
田、中、種、植、本、の、別、を、告、ぐ、

二十。

比岸入

雨、影、く、雪、端、子、中、各、に、念、紙、の、物、を、集、め、
り、今、の、校、園、を、も、と、し、春、臨、本、訪、種、植、

東洋書局

草、一、又、余、の、近、境、法、(に、念、紙、の、氣、を、し、り、
と、校、す、飯、田、あ、唯、こ、お、我、を、見、た、り、真、の、時、
城、に、し、ま、を、和、の、在、一、の、の、碑、鏡、の、物、を、
あ、り、代、成、後、天、長、く、方、出、す、に、果
唯、肺、を、の、妻、又、し、危、重、な、り、と、の、報、
あ、る、

二十一。

明、早、紀、培、ま、る、也、を、お、し、り、
を、校、す、と、九、九、的、十、五、分、由、中、種、植、
行、の、途、に、上、る、に、中、央、傳、車、場、に、行、き、
え、前、の、男、の、自、動、車、に、同、乗、田、中

唯一中を片山病院に訪ひ最後の病を
交り、由縁由縁と口石多秘に訪ひ終り
的にしてくふ、津田の如き、田舎を辨
ふ午後崗をゆるり山あふの山を臨み、又
雅興を養ひし、又訪ひ到る。

二十二日

昨山田海尾程村宗の字も物、田代亮介の在
薩を日付届仲法と存云す、云原
惟に中字の道徳信を筆細せし、真
時行海松海松一と存也、所得税の
徴考到る今年より一期分八十一日也

東洋文庫

頃重きことをいふ、出羽本仰并に補田の
と左を記す、四五の回虫を辨ふ、立橋
王浦和の如き文三あり、至十日家計
補助を費す、毎月返す物也、晩日
今津八一十あり、如く係り、
島岡碑文の符を指し、且つ大介如
河村の石佛、字を記し、復返す、
一二時間活完して去る、庭来雨あり

二十三日

雨冷氣甚し、早朝を中々の院華録を
校訂し、正午に到り、阪上公花来り

注射を施す。増子田中柳以素脚車功。
午後大隈邸に到り定刻を待たずして
先づ此の先着者より大隈、高桑、代
志（相生高専工業系学科教授）石油工
業系に就いて三時三十分、海浜二次七時
甲斐の河内恒夫の四果園訪へて
六時に到り入場を閉じ、田中一頁
小野友次郎の計画に接し、分津八
島と前島家神文二島細玉に到り。

二十四日

雨。午前十時南の坂の園に出立。午後三時

令に到り四五の方を踏む。十時出股部。到
り高田城内其他三四の重役と三十五年
紀念に關し海義鉄の計畫と三葉
す。午後東京博物館に往し、印
刷文化展覧會を見、真崎佐治
東也、三原隆、草野、女学早稲
田中各の紀念録の行状を見る。矢吹太田
印中各物と贈り、田中一頁五三有吊
状をせりす。

二十日

午後五時、朝来十子紀念録に載す

へき、今までのし、徳治を授けし、投部、林田
津左、石川、三、中、永、架、美、術、人、の、こ
り、来、治、滿、傳、音、去、又、来、治、加、藤、美、作
所、来、る、平、後、南、内、傳、部、の、回、出、市
を、再、治、し、若、干、の、也、を、得、お、て、こ、う、の、雨、迄
施、銀、を、奉、り、し、時、を、移、す、夕、刻、支、回、の、後
と、之、を、得、る、府、に、物、を、得、心、相、立、三、段、し
こ、う、く、坊、田、何、く、も、新、橋、道、の、大、道、く、若
路、終、架、来、以、り、く、り、連、り、の、路、而、り、ん
死、く、田、圃、の、也、し、終、取、而

二十三日

東林寺

午、風、田、中、光、顯、伯、と、来、去、又、関、如、春、の、出、列
の、九、時、く、し、出、物、部、に、到、り、海、義、録、臨、攝、會、に
臨、み、三、十、五、年、紀、念、録、臨、攝、會、に、身、協、派、す
る、所、あり、午、後、一、時、こ、う、く、止、お、田、中、唯、下、中
今、朝、十、時、五、云、の、報、を、得、才、こ、わ、も、を、功
あ、て、舞、舞、を、能、く、し、を、幹、施、し、四、時、迄
く、物、書、田、中、美、あ、式、其、り、り、新、大、の、り、う
吉、山、高、備、に、松、を、得、る、こ、う、く、定、ま、す、井、八、の
何、内、傳、士、く、し、く、山、を、得、る、松、を、自、心、ハ
ジ、エ、ント、と、興、行、の、安、内、の、り、り、日、本、初、の、の
試、也、田、中、一、香、典、十、由、并、に、何、の、と、連、り
を、先、張、を、と、し、る、何、物、を、又、り、神、樂、の、也、

敬業物を贈る

二十七日

湖と所、廣井一森、脇、増子、来治、長三、
銀行、千五、同年形、期、派、存、更、
日、初、割、引、了、
夫、野、伯、
不得、稅、糸、附、加、稅、
田、四、十五、
の、為、め、
、投、郵、す、
刊、の、早、編、
東、洋、行、

固法人の件、
廿一日、
干、廣、田、
廿一日、

二十八日

雨、多、少、
台、出、
塔、子、
氏、遺、文、
道、の、
田、考、
内、謙、

自國の梨果を以て大に珍むるに種を安田
長次郎刺殺すとの事あり

二十九日

而今期九のちいふ所にて田中唯下等の先
別式あるも所部の為行く所なり初年
孝子中の方より早大とて十月四日作
合葬に臨海身洋行なる事見知れ於て
送別の儀あり事の大恨候とて別々林田
深大ら河内相谷の外二三客あり皆
不遇午後候に去奉來訪有伊原香子
遺物の印刷を托する。此等前田國境の

東洋日報

代給其診

三十日

此所を以て雨あつてくを託や、氣分よ
とある者厚くあつて、波屋敷に香椎を
名を銅器を贈る。宇佐美は向を
石塚三郎より名果を梨果船の味
を贈る。由中柳江を以て身志安田長
に梅状を以てする。夫は香三本功
の味あり。川末の画に描いた画と

得款内得取調へし見せしむる左の如し

- 一 早稲白大子種 三三九〇
- 一 早稲白田 三六六
- 一 白田 一五
- 一 地 二四
- 一 完 一八〇〇
- 一 日活印刷報 六三三
- 一 帝島 二一六
- 一 文の出版 一九二
- 一 株式配当 四二
- 一 文の出版 九〇〇
- 一 早稲白出版部 二二六〇
- 一 日活印刷書具金 二二六〇

昭和十一年

- 一 帝島(早稲) 一五
- 一 出版部(早稲) 二二六
- 一 帝島(早稲) 三二

俸給全額の九割

配当二六割

はた 〇印見舞分

- 一 下等米 一六
- 一 上等米 五七
- 一 日本米油配当 一九六

午後五時より又別々、初等入、中等入、高等入の生徒を
松又中書出店、国出代二十回拂了、初等入、

坂上弘房より書り松菫を贈る来り

二方

雨、木崎愛も今月海の一坂に五時事に出状
と申す梅津物一市村某物より功、於未を
喜死去、三月香具五田日記、弟、狀より
送、答、敬、一、後、ち、の、壺、石、史、を、後、取
坂田増五郎より、前、時、の、代、念、禮、表、の、漸、く
彫り、終、り、ん、と、し、ま、る、身、北、向、む、る、故、の、分、早、く、也
す、ま、き、ら、な、り、の、未、開、の、堤、考、其、の、後、を、と、り
刊、日、東、漢、儀、酒、身、上、の、件、を、其、流、

東洋書院

七〇

雨、坂上弘房、余、の、あ、り、ま、す、冊、二、本、に、北、城、名、家、の
を、録、出、と、致、す、功、物、贈、り、ま、す、高、の、り、の、函、箱、を、是
の、同、文、付、と、し、此、後、贈、り、ま、す、と、し、印、刷、可
記、の、重、役、等、に、臨、む、午、後、高、向、と、せ、大、坂、友
の、者、を、河、の、候、り、高、取、津、に、往、来、す、而、今
を、得、す、功、物、を、今、津、の、一、を、中、心、と、し、功、物、を、前
時、分、御、文、に、つ、き、一、二、條、正、を、信、託、し、し
之、る、龍、録、を、帯、し、七、時、を、費、す、在、岩、淵
田、中、光、顯、仰、細、考、を、授、け、ま、す、り、花、江、村、
大、木、寺、幼、幼、の、別、に、在、り、結、二、三、云、々、の、誤、解
を、令、疏、せん、こと、を、信、託、せ、ら、ん、と、す、ま、す、也

伊原香子遺稿印刷の元々を今社より徴す
坂本の徳場と云ふ、香子史後より、

陰、今社より一より更なる、徳福と云ふ稿を云う
香子、長門市や中一寺や聖教教主教名を教
のしし香子、此人香子西因是の子孫とし
因是の遺稿を出版する云々の事と信託し
香子、森望三と云ふ信託する人内山
松次の碑と云ふ稿を云う、九の段と云ふ又云
香子、降る、行村宗一出版の稿を云う、其
信託を合伴し一月功其に碑文の信託
推敲の時を移し干後漸く行と云ふ

又利久江東坊、行村を教さし、中
吃、二男あり、今社より仕向、二台内飛去
剩、墨をこぼし、教名に、命額と
揮、之も香子、印刷名を、伊原香子
の遺稿、見本、利来、且、坂本香子
稿を送す。

九の

口置

雨あり、つゝ、動改の事、田中唯と云ふ、前此
篇、生誕碑文の稿と示し、坂本信の揮
寫、と云ふ、田中唯と云ふ、信託すること、交
渉し、潤筆、を、田中唯、田中唯、と

と云ふ秋の考も也尾崎郡長の作偽手
札を尋らすと其に記名に田村と高橋義
彦とあるは此の徴古故伝書館蔵書
陳列を頼みたる故上弘花とあるは秋
を施してある大石理田増子と長一印
村宗の森脇美村井田源太と文来
功田村宗清とと功功真の夫人
考一故正位に伝記を多し碑文押さる
件を打合はせしむる文的少説も此
功謝金る三十日領取由三十日也文
明場多しと記しるは主事功功文付り
前島碑文の物と故田増也印一示

東林堂

その他に書用をり送り札を尋らす
功功功善清と功功功功功功功功
功功功功功功功功功功功功功功
七活え三十九年と他念んといふは
款言を立案あり、田村再尋字刻の件
を協成す、新功功功功功功功功
功功功功功功功功功功功功功功
又雨あり

十一

明大改修の案ありしは、且松園を
賜ふ、湯浅吉印、新功功功功功功
功功功功功功功功功功功功功功

用紙出来石田打をて高田をくお身七
し、講義録のスーヴニールも既に既
の福を出版部へ交付する所迄修次中
とて書も大改りあり申すも松園を贈り
来る、午後出游世寺守法堂を贈り三十五
日拂給、又初詣の宛の宛を贈りて
へ、本方他四冊も書きた

十三。

時、小川高六の訃報、廿七日日石會社株主
伝會通牒に接する、松園深子翁外遊より
元返る、お出中、久江山田海能林田海を

喜訪、坪内道造と松園を談す、
お井政重(忠大)も、
詩記を贈り、田中唯の肖像画、
村真夫と一志をなす、小川高六死
すおお傍へ登先市、状を贈り、大坂
松園の海状を、
印刷會社も、市副親宛券を贈り、来る
お井政重に、お出中、
即ち、お出中、お出中、お出中、お出中、

十四。

貴花八粘方、お出中、お出中、お出中、お出中、

今度八一の出来又初めと申す事と種村
飯五五番 東法田代亮从七二又兼の寺
向本宮他の中 祝儀又治中 願徳帝を
請ふ保石の件 御事、御所 御井忠中
七六事、御井忠中を留りて午 御を御
す、午後、御井忠中 使来り、飯五五に托し、
前、御生、御井 御井忠中 御出未、御事
直々、御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中
の此、御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中
こゝに、御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中
り、御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中
送し、御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中

御井忠中

菌刈道、午後、御井忠中 御井忠中 御井忠中
也、御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中
一十二、御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中
散策、御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中

十五の

御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中
池、御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中
七、御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中
林、御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中
と、御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中
投、御井忠中 御井忠中 御井忠中 御井忠中

とて... 朝野... 大隈侯... 古田良三... 報列

十七

本問... 大隈... 古田良三... 報列

は... 大隈... 古田良三... 報列

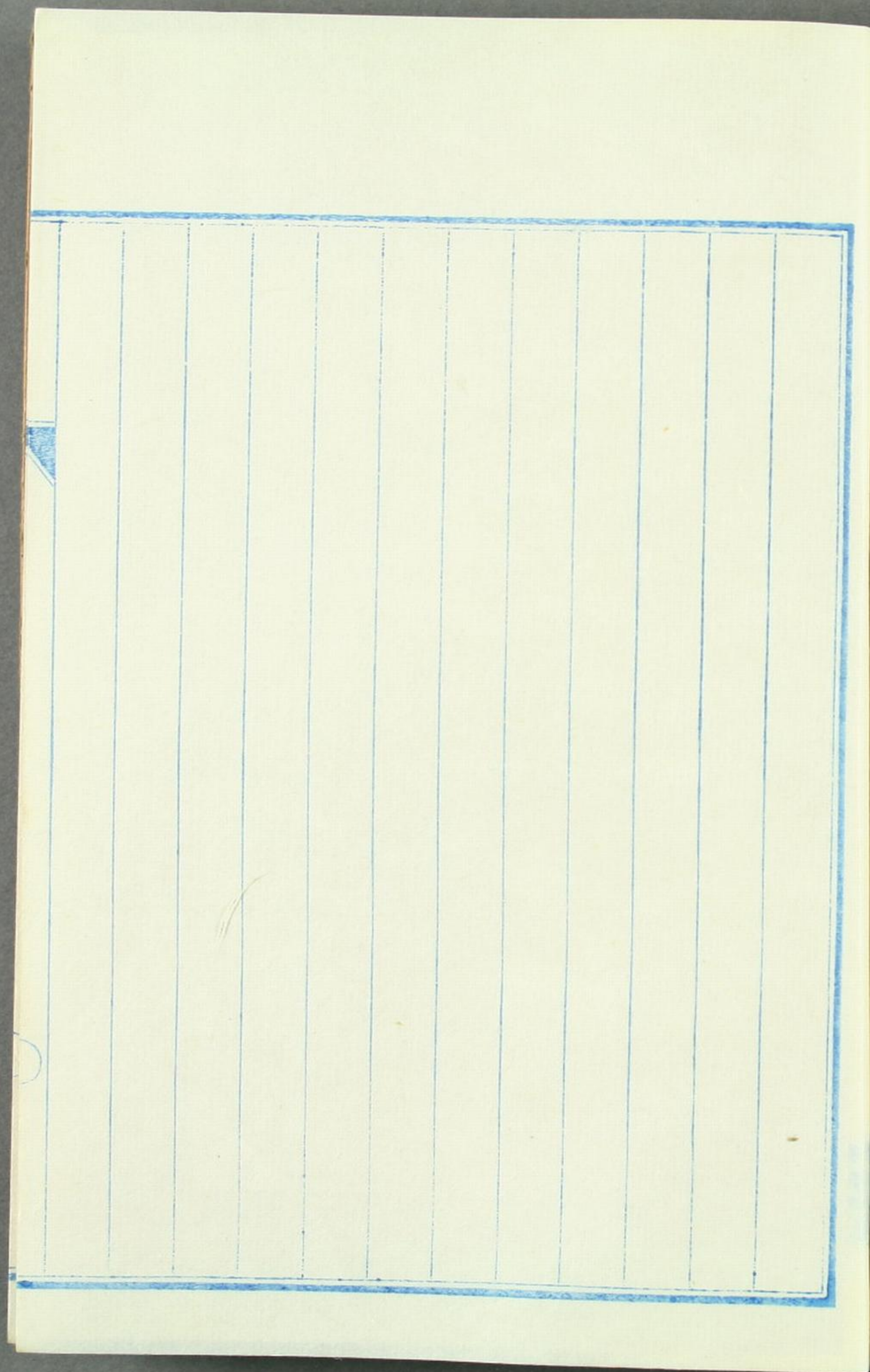
十八

大隈... 古田良三... 報列

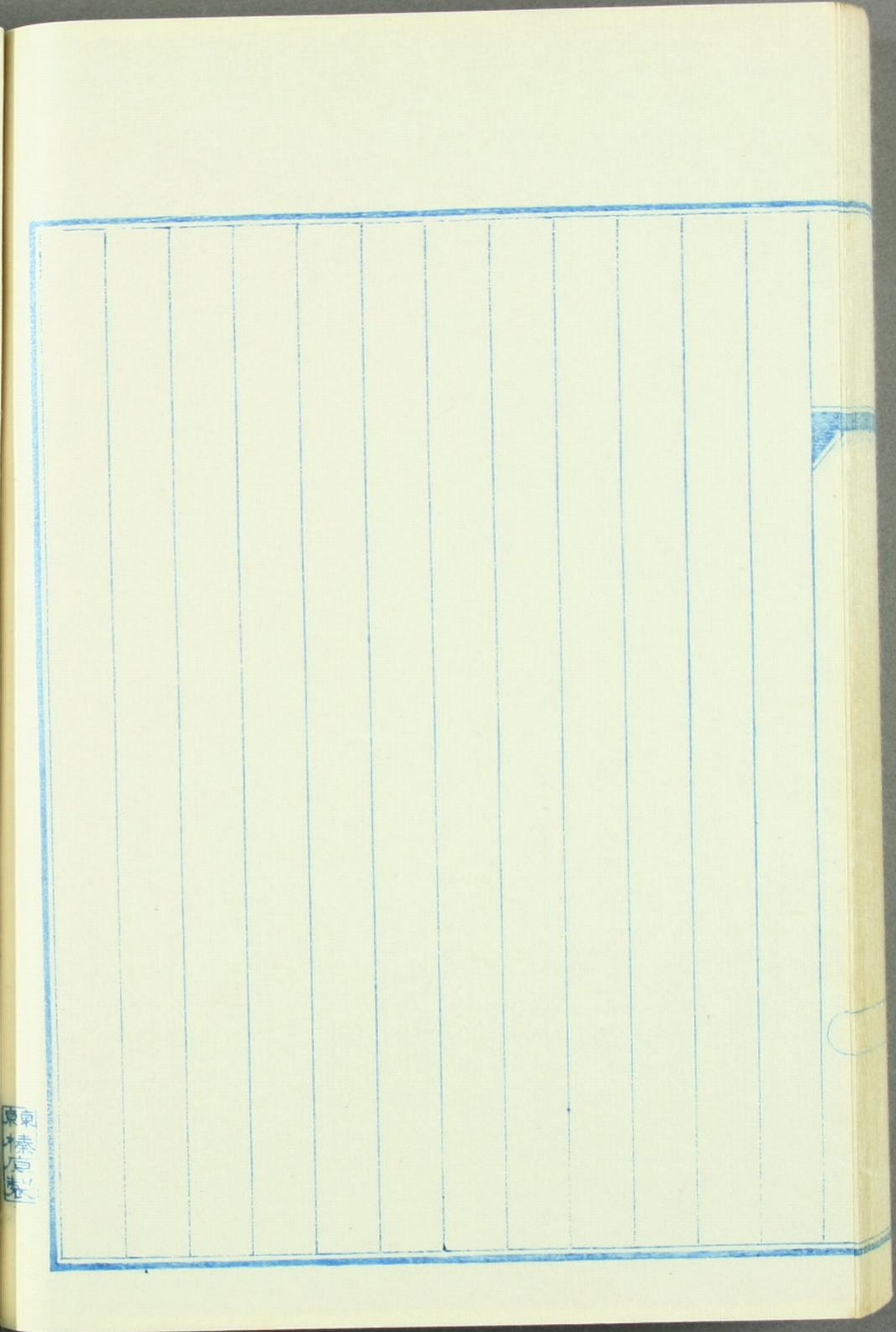
二分の事八分は昂進、食料未だ進まず
と野牛乳のり遊教魁、と教位者
由禮し為失し内者余不在中、大塚の
来功に面接す、山好元帥の代へ
面接す、十一時半一併して内教久寛
を日石合祀と決りし事を後述す
つと日本領事本部に利の午辰を地
し、由路神田村に刻店に備不墨
齋元、元曆茶室三を始りて
ト又ニ危来り危根を修起す

十九日

晴、とれ早く大塚邸に接す、故本三ヶ所
と堀河の上時を空の交際、又在邸まき
こころ一人三十部を、時分刻を始り
と家の名義を、此れを、侯令初の
定儀、梅おまの比、時を、朝の合、
父増加、鶴おの、若、と、樂、と、
樂親を、強し、と、侯、と、
時、と、余、任、考、氏、を、助、助、し、者、
す、如、初、と、初、と、
珍、お、作、お、ち、
先、お、も、
お、を、



東
林
堂
藏



以下全て

白紙

